



松代復興応援実行委員会 2年間の活動記録 ALL 松代

私たちは、令和元年台風19号によって被災した松代の人と町を応援しようと、ボランティアが集まって活動をしている市民団体です。

私たちの歩み

被災者をオール松代で応援

令和元年12月松代復興応援実行委員会立ち上げ
個別訪問活動の開始
ニーズ把握とボランティアコーディネート
あったかつしん配布開始（現在28号まで）
まちの保健室開始
支援物資の配布と拠点の整備
イベントの開催
サクラの花びらメッセージ展
伝える活動 写真展・紙芝居作成
コロナ禍応援活動 マスク配布
アマビエ作成と配布
心のケアパンフ配布
復興局1年イベント参加
防災学習会をシリーズで開催
防災減災活動にむけた冊子の作成と配布
防災学習のための教材開発の開始
オリジナル防災ポーチの作成販売
オリジナルアマビエバッグの作成販売
町内ネットワークづくり
他団体との交流及び研修会参加

訪問活動

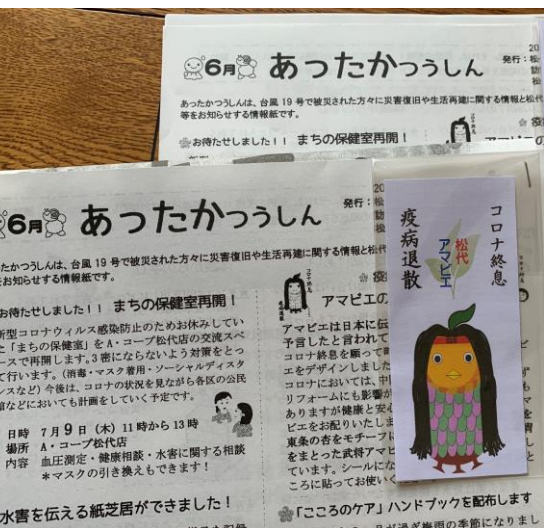


訪問は、ニーズや見守りにあわせての個別訪問や地回る域を決めて一斉に訪問するエリア訪問などを実施。

情報発信



被災者に必要な情報を届けるために「あったかつしん」を発行。令和元年12月に第一号を発行し月に1〜2回、被災世帯へ手配りで配布している。現在28号まで配布。



実行委員会のメンバーがそれぞれ配布エリアを担当している。通信を配達しながら床下清掃の様子やボランティアの活動状況、リフォームの工事状況、解体し空き地が増えていくなど、変化する被災地の現状を把握、また被災者と話をする場にもなっている。コロナ禍においては、他の活動を休止せざるを得ない状況でも通信の発行は継続し被災者とながりが切れない工夫を行った。

物資支援



↑マスクやお菓子を応援バックにして配布
始めた頃は、消毒液が人気だった。



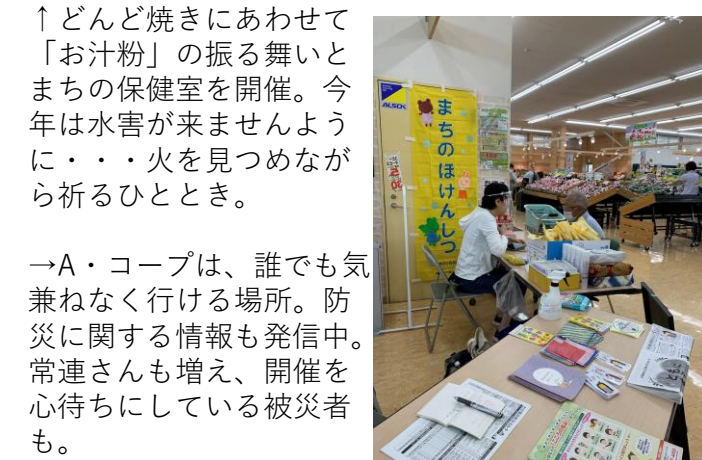
まちの保健室



被災者の居場所事業として「まちの保健室」を開催。各被災区の公民館や集会所など、既存の資源を活用して実施。その後、誰でも自由に来ることができるようにA・コープ松代店のコミュニティコーナーで活動を継続。現在月に1回第4木曜日に開催中。



↑普段使い慣れている公民館に集まって。あのときの話は尽きない。話すことでいろいろな情報が得られる。一公民館が離れて行きにくいときは近くの床屋さんのスペースを借りた。



イベントで応援

「ちゃかばか松代」は、若い世代のお母さんたちが発案。災害が発生してさまざまなイベントが中止になり、町全体が暗いムードになるなか広い会場を借りてイベント型の応援活動を実施。3回実施（11月、12月、2月）



↑毎回楽しさが伝わるチラシで呼びかけを。あったかつしんと一緒に被災世帯へ配布。



イベント会場では、浸水時の住宅ケアの相談が行われ、この相談をきっかけに床下の乾燥を始めた人もいた。



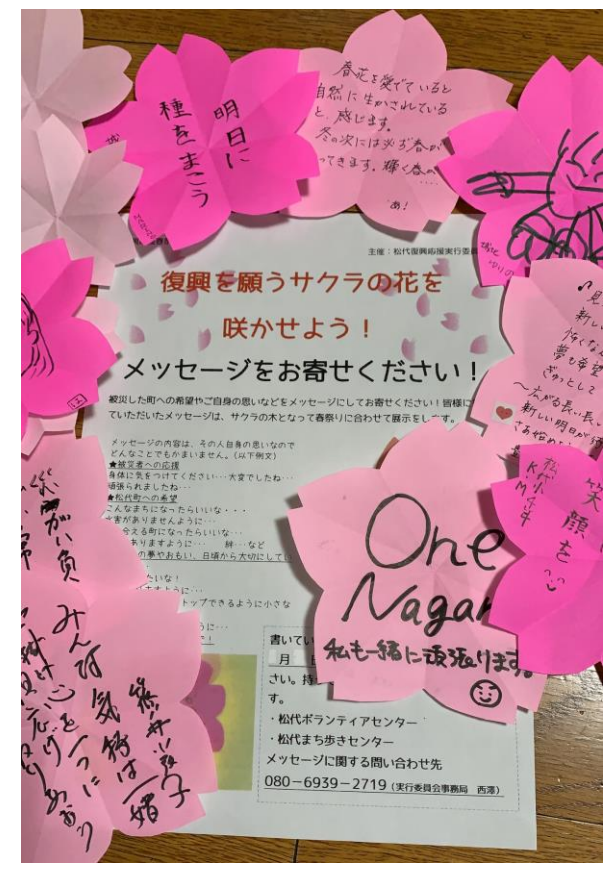
12月の商店連合会との共催事業では、年末の福引きにあわせて実施。お正月飾りを作るワークショップや餅つきなどの子どもたちも大勢参加して楽しんだ。



オール松代で

被災区は松代町内の一部でした。被災していない区の皆さんからするとちょっと他人事・・・被災の現状をよく知らない人達も多かったのです。そこで、松代全体で取り組む応援活動を実施しました。

さくらの花びらメッセージ展〜復興を願うサクラの花を咲かせよう〜



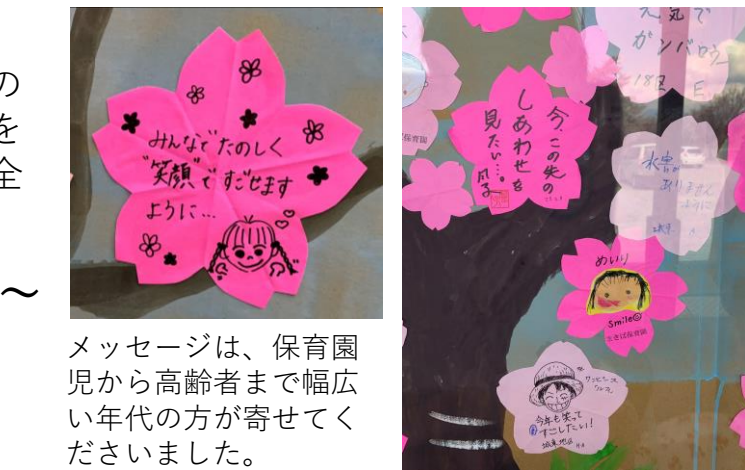
復興を願って町内の皆さんから応援のメッセージをいただきました。さくらの花びら型に切ったピンクの折り紙に思いを書いてもらいました。集まった花びらは1000枚近くにもなりました。



↑松代郵便局 コミュニティホール



↑A・コープ松代店



メッセージは、保育園児から高齢者まで幅広い年代の方が寄せてくださいました。



旧長野電鉄松代駅ホームに展示



集まった花びらをボードに貼る作業をするスタッフ。
下絵はエコー・ド・松代倶楽部美術専科の皆さんが描いてくださいました。



R2防災活動 学習会開催

災害を他人事から自分事として考えるきっかけをつくる防災学習会をシリーズで開催。被災の体験を教訓に今後の松代地域の防災意識の向上を目指す活動です。

●体験型学習会の開催



絵を見ながら危険な場所や行動を考えるクイズは子どもたちも楽しく学べる。

水嚢の作り方や、ペットボトルと懐中電灯でランタンを作るワークショップは子どもたちに大人気。

ハザードマップを見てマイタイムラインを考えてみる。他の人の意見が参考になった。

他にも避難所で使われる段ボールベットやテントを体験。



●地形と過去の歴史から学ぶ会の開催



講師
松本吉隆さん（松代町東条在住）
昭和35年松代町河川愛護会設立
平成28年度から会長に就任し現在に至るまで松代町の治水対策に取り組む。



講演は、以下の3点について、学んだ。
①松代市街地の地理的環境
②過去の水害とその治水対策
③令和元年東日本台風の背景から今後へ



R2防災活動 シンポジウムの開催

被災した人や支援活動をした人から当時の話を聞き、「私たちの暮らし方」を考えるシンポジウムを開催。旗揚げアンケートでは、参加した住民が率直な意見を交わし合った。そこから大切にしたい事が見えてきました。



ファシリテーター
内山二郎氏（長寿社会開発センター理事長）
コメンテーター
小野貴規氏（長野市生活支援地域ささえあいセンター）
パネリスト
町田修さん（松代地区住民自治協議会会長）
東條清和さん（被災区元東寺尾区長）
林伸之さん（消防団松代第一分団副分団長）
井出昌輝さん（松代ジュニアボランティアチーム代表）



4色のカードで自分の気持ちや意見を表現。それに基づいて意見を深め合いました。



全体を通して見えてきたキーワード

- ・情報の共有と発信
- ・日頃からできる事をする
- ・多世代の力を発揮する
- ・学びあい
- ・足し算かけ算で助け合い

さまざまな情報をまとめ共有し住民にリアルタイムで伝達できる仕組み
隣近所とのお付き合い、互助を深める
団体の活動、若者の活動、高齢者の知恵などみんなで助け合う
過去の教訓を活かし防災学習を進めて備える、当事者意識を持つ
地元の力、外の力を活かしくみ



R2防災活動 冊子の作成

被災の体験を教訓に！
防災減災活動を始めるための冊子を作成し松代地区へ全戸配布（約6000部）



R3防災活動 学習会の開催

防災啓発活動として学習会やカフェを開催。さまざまなプログラムを用意し、年代や地域に即した内容で開催。令和3年度から開始。



防災学習会を開きませんか！

地域の防災活動の一つとして、学習会を開きましょう！
お茶のみサロンや体操の場、役員会、育成会など、場所や時間、対象者に応じてプログラムを考えます。防災への意識を少しでも高めるための一歩としてご利用ください！

プログラム1 紙芝居 令和元年10月12日 台風19号による松代の被害 伝えよう！水害の怖さ！ 人々の心のつながり 紙芝居 伝えよう！水害の怖さ！ 台風19号の実態やさまざまなエピソードから学ぶ。真に迫ります。 対象 子どもから大人 所要時間 30分	プログラム2 体験からの学び 被災区の方からお話を聞こう！ 「まさかの体験」から災害を自分事として考えるきっかけになります。 対象 子どもから大人 所要時間 30分程度	プログラム3 防災・減災に役立つ学び 防災、減災に役立つ学びです。ハザードマップで確認や避難レベルの算出、避難する際のポイントなど。被災した皆さんから教えていただいたことをお伝えします。 対象 子どもから大人 所要時間 30分程度	プログラム4 防災グッズ 防災グッズ、何をどうそろえたいの？ 防災リュックや防災ポーチを見て自分の防災リュックに何をいれるか体験します。 対象 子どもから大人 所要時間 30分～
プログラム5 ローリングストック（食料の備蓄） 備える 食べる 防災グッズ ローリングストック 大規模災害が発生したときに、生き延びるための食料は最低3日分必要といわれています。無理せず準備ができるローリングストックの方法や「びっくりするくらい」の体験など。対象 子どもから大人 所要時間30分～1時間	プログラム6 ペットボトルランタンづくり 懐中電灯をランタンにする方法や寒さ、暑さ対策を考えます。 お茶の間サロンや育成会のイベント等でできるカードゲーム感覚で楽しく学べる防災！子どもから高齢者までどなたでもできます 所要時間 30分程度	プログラム7 防災クイズやゲーム 防災クイズ、防災カルタ 防災すごろく、カードゲーム感覚で楽しく学べる防災！子どもから高齢者までどなたでもできます 所要時間 20分程度	プログラム8 お茶の防災ポーチ 子供の防災グッズ お菓子の防災ポーチ 避難すると子どもは日頃と違う環境に行く事でストレスも大きいのです。そんな時に役立つお菓子の防災ポーチ。子ども向けです。 所要時間 40分前後
プログラム9 マイタイムライン 一人だと書けない、どうやって考えたいのかわからない...みんなと一緒に考えたいと書けます！小人数のグループでもできます。	プログラム10 水害の侵入を防ぐ水嚢の作り方 水嚢の侵入を防ぐ水嚢の作り方と置き方を学びます。 所要時間15分	◆気軽に相談ください◆ 10のプログラムを組み合わせて時間内にできることを考えます。他にも防災散歩や、ささえあいマップ、地域全体で防災を考えたいなど、もう歩込んだ学習を希望されるときには、講師をご紹介することもできます。	

* 防災学習会の申込みは 住民自治協議会 電話 026-278-1885
* 内容について相談は 復興応援実行委員会 電話 080-6939-2719（西澤）



伝える活動 写真展

被災の現状を多くの人に知ってもらい、記録として残すことで今後の防災活動に役立てるための伝える活動。
写真をパネル化し各所で展示会を実施中。



防災学習会の会場 松代小学校



防災学習会の会場
松代文化ホール



ロイヤルホテル長野 市主催の一年イベントにあわせて



市民協働サポートセンター



松代荘 ロビーにて



長野市芸術館
市域ネットワーク会議にあわせて



写真パネルは、被災の様子が分かる物、被災直後の様子、ボランティアの活動の様子など多岐にわたっています。

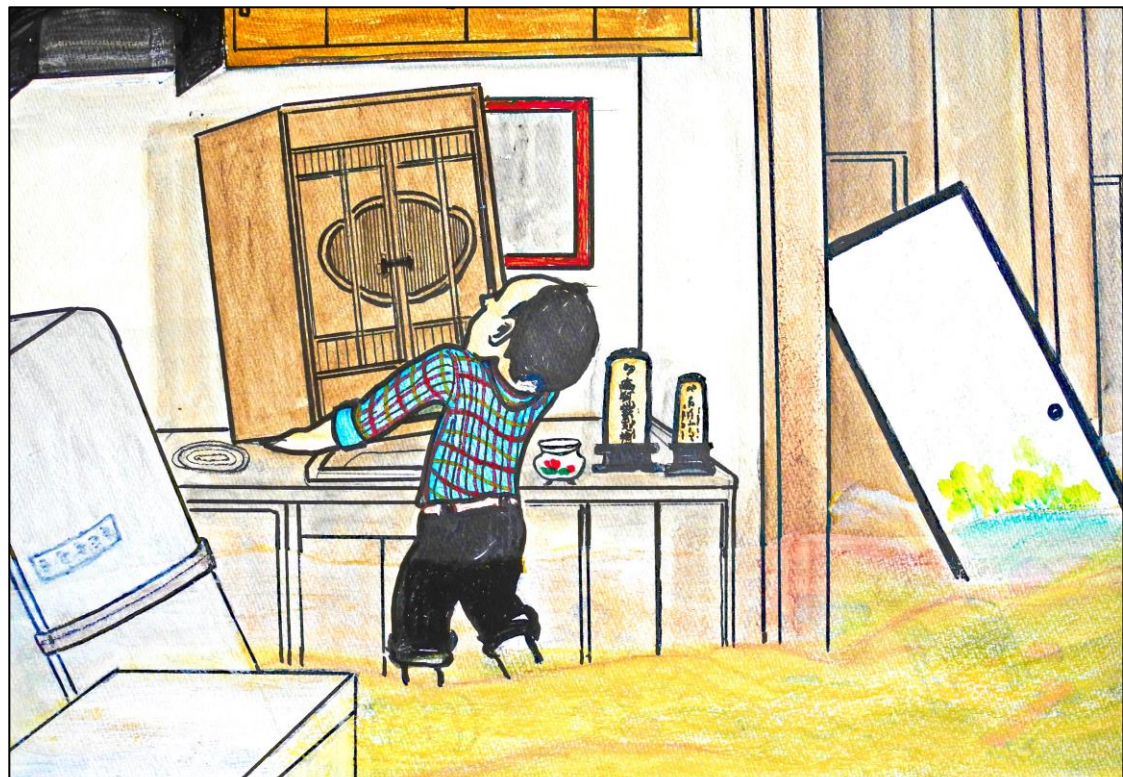
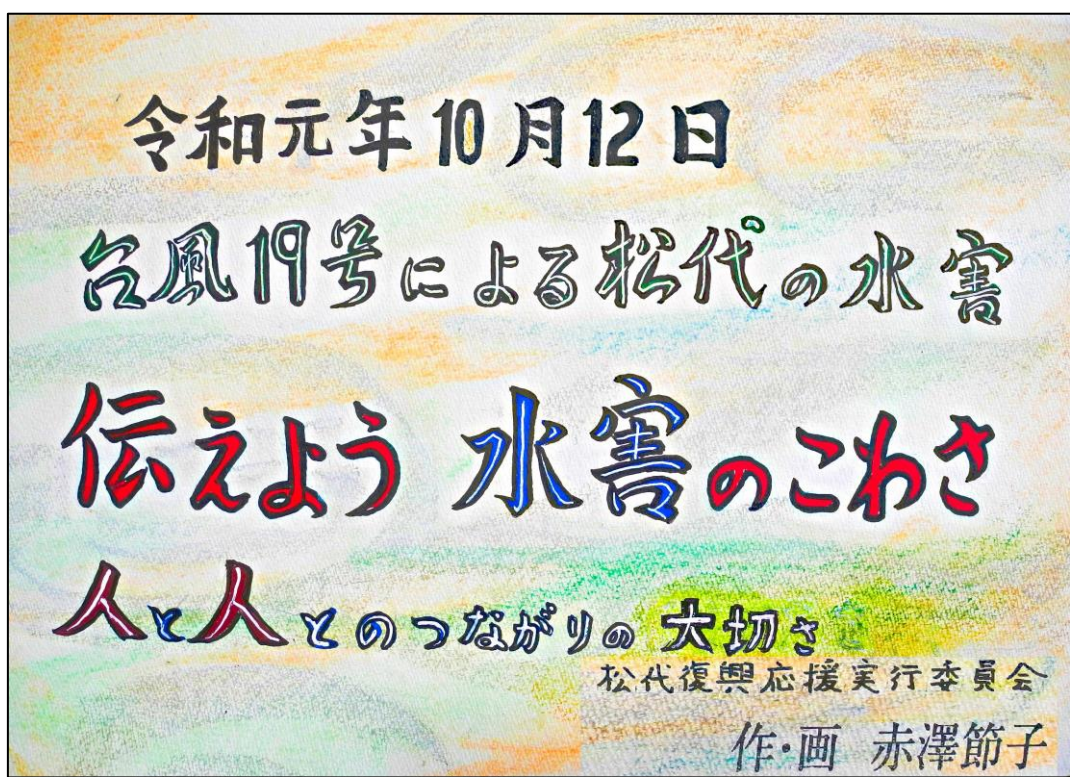


伝える活動 紙芝居

被災体験を多くの方に知ってもらうことは災害を我がごととして考える大きなチャンスです。被災者の皆さんからお聞きしたさまざまな体験談を紙芝居にし皆さんに知ってもらう機会を作っています。

「伝えよう水害のこわさ」 作・画 赤澤節子

31枚の超大作です。この紙芝居は被災された方の実話に基づいて作成しています。災害時の混乱の様子や避難の方法が分からず戸惑い不安になったこと、ご近所さんで相談したり助け合ったこと、浸水の状況、ボランティアの様子等が描かれています。この被災体験が防災に繋がっていくのです。



区長会 松代文化ホール



田町公民館 防災学習会



市立長野博物館
ボランティアの会



松代小学校 防災学習会
会場にて



区長会、民生委員児童委員会、住民自治協議会、地区公民館など、各所で上演が行われています。コロナの感染拡大においては、中止になることも多いです。今後は上演を配信するなどの工夫も必要かもしれません。

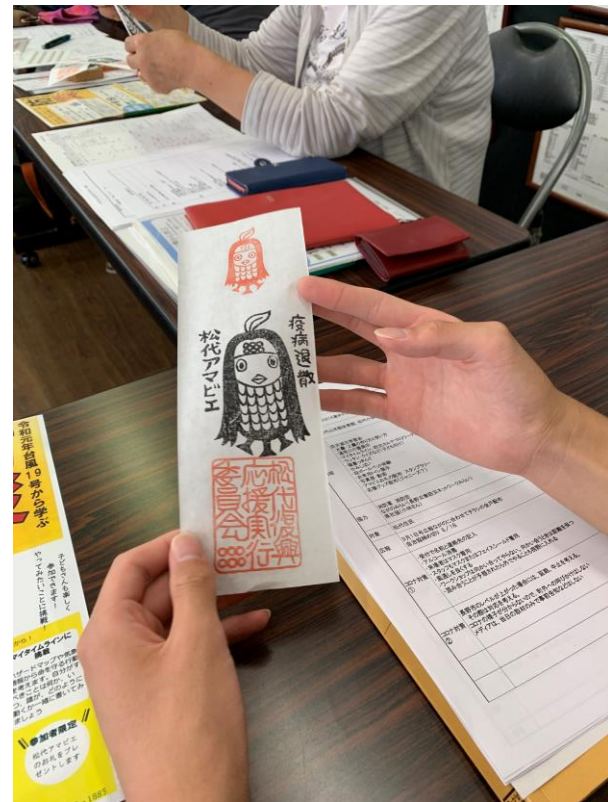
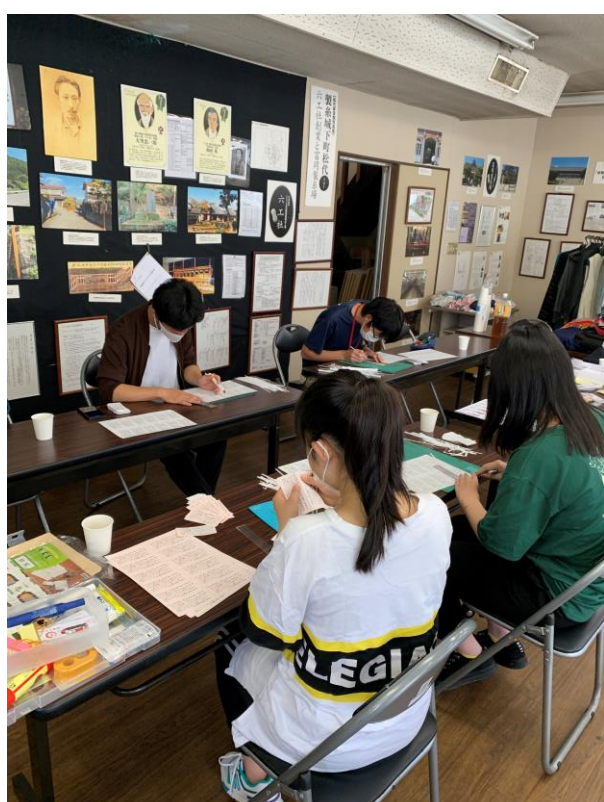


応援活動 コロナ禍でも

コロナ禍でもつながりがとぎれないよう活動を工夫。高校生がデザインしたアマビエのお札を被災世帯に配布。また、手作りのマスク等応援グッズの配布も実施。



縫い物が得意な地域に皆さんが協力して作成。多くの人が応援活動に参加するきっかけにもなりました。



松代ジュニアボランティアチームの中高生も活動に参加し、お札の配布の準備を行いました。



スキルアップを 目指して

防災意識を高めるため、実行委員会のメンバー自身の学びが必要です。被災の経験を活かし、身近にできることを学び合います。



河川愛護会の会長さんからハザードマップを見ながら水害の危険性について学ぶ。



スマホを使って長野市防災ナビをダウンロードし使い方を学ぶ。スタッフ自身が使いこなすことで多くの人達に伝える事が可能になる。いざという時に役立つ。



市域ネットワーク会議に参加。他の団体の活動からヒントを得る